

令和6年 お茶づくり技術情報 (No.4)

2024年4月17日
佐賀県茶業技術協会
佐賀県茶業試験場

1. 気象と生育

1) 一番茶の生育状況

表1 作況園の萌芽期 (やぶきた、樹齢23年生)

本年	前年	前5か年平均
3月30日	3月27日	3月28日

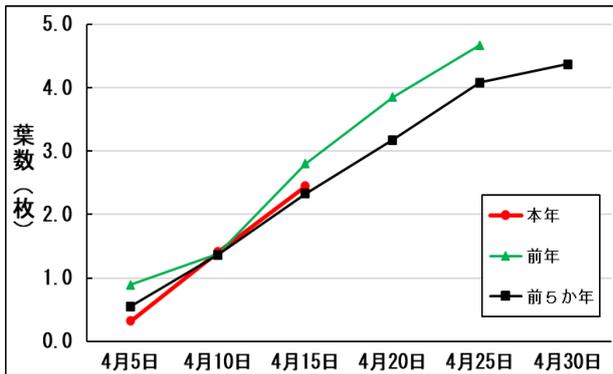


図1 生育調査 (葉数)

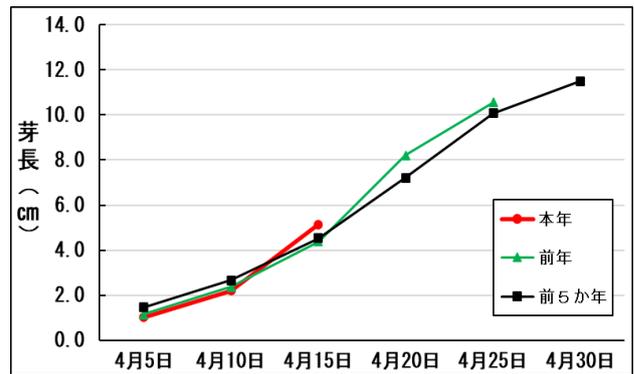
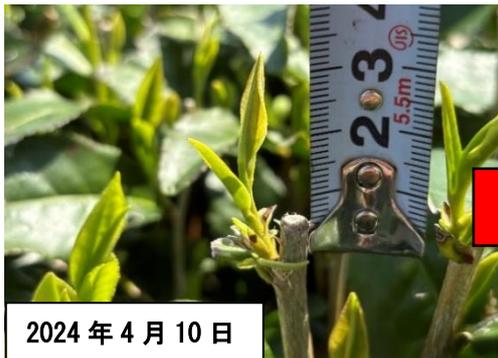


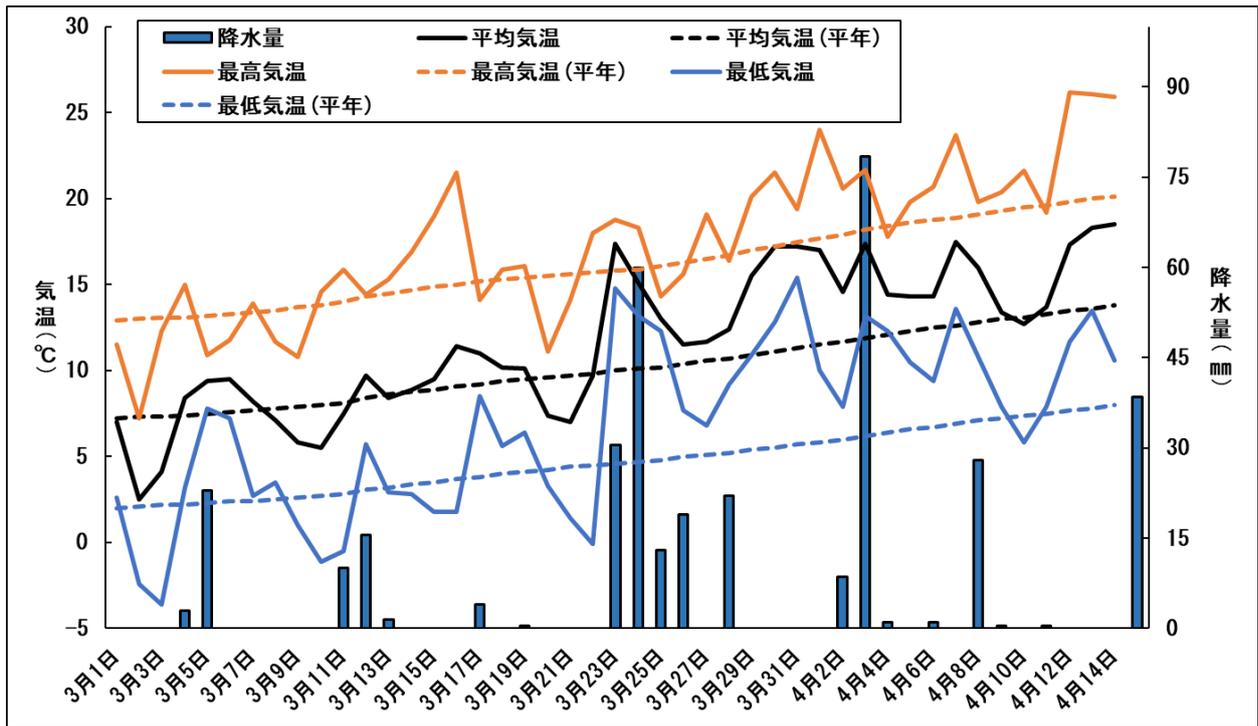
図2 生育調査 (芽長)

- (1) 場内の作況園(やぶきた)では、萌芽期は前年や前5か年平均より2~3日遅かったが、4月上旬の高温により、葉数は4月15日時点で2.5葉となり、前5か年平均(2.2葉)以上となった。
- (2) 芽長も、4月15日時点で5.1cmとなり、前5か年平均(4.5cm)以上となった。



今後も平年より高い気温が予想されていることから、被覆開始および摘採時期が遅れないように注意する。

2) これまでの気象 (3月~4月上旬、嬉野)

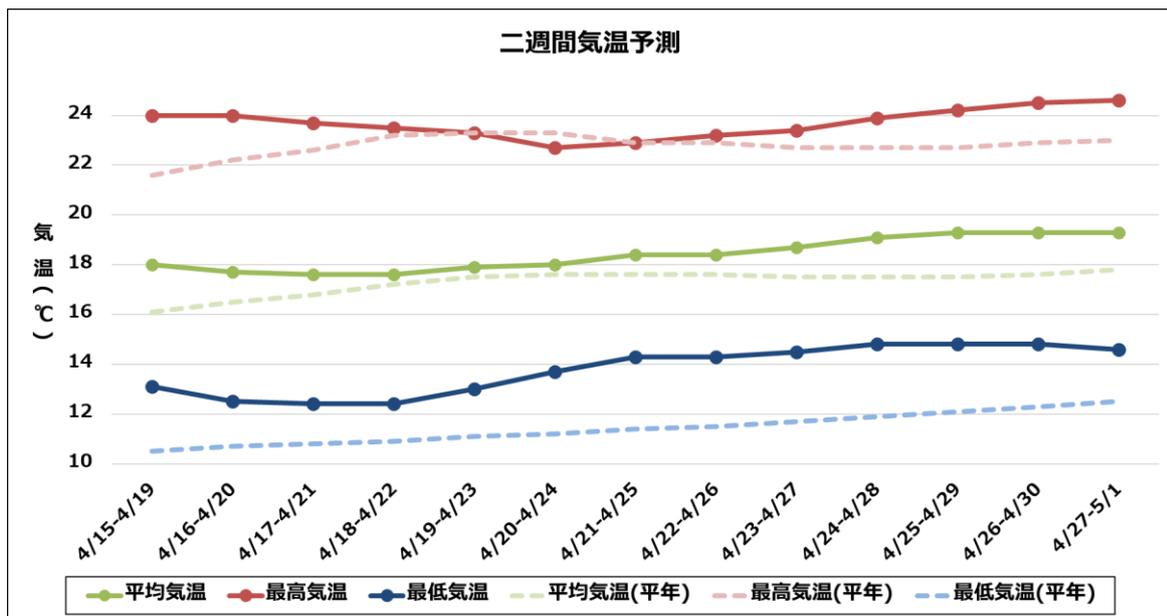


注) 平年値は 1991 年~2020 年の平均値を表す。

- (1) 4月上旬の平均気温は 15.2℃で、平年値の 12.3℃と比べ約 3℃高かった。
- (2) 4月上旬の降水量は 117.5 mmで、平年値の 66.4 mmと比べ約 1.8 倍の降雨となった。

3) 今後の気象の見通し

■ 2週間気温予測



注) 予測対象要素の平均気温、最高気温、最低気温は、それぞれ日平均気温、日最高気温、日最低気温の半旬移動平均値。平均期間は各グラフのラベルの日付。

- (1) 向こう 2 週間は平年並みか高くなると予測されている。

■ 1か月予報（気象庁、令和6年4月11日発表）

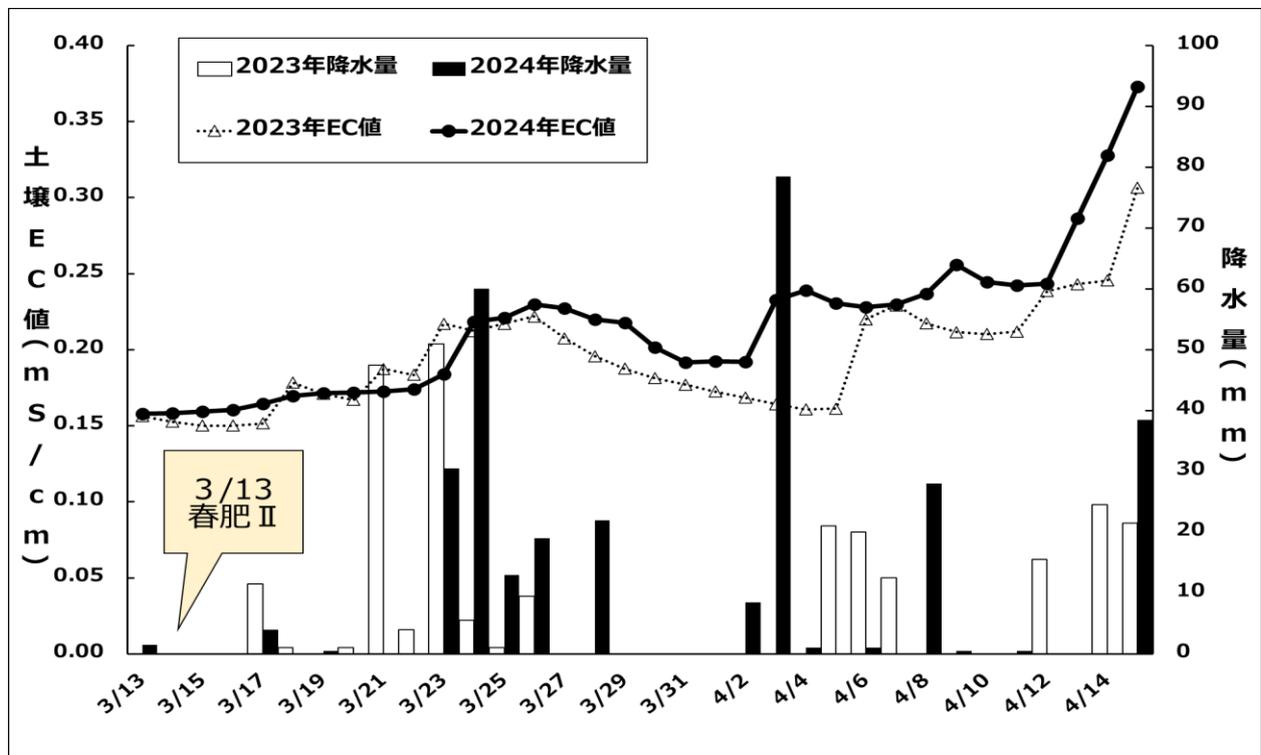
向こう1か月の天候の見通し
九州北部地方（山口県含む）（04/13～05/12）

	平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
九州北部地方（山口県含む）	低10 並10 高80% 高い見込み	少20 並40 多40% 平年並が多い見込み	少40 並40 多20% 平年並が少ない見込み

- （1）向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、特に期間の前半はかなり高くなる見込み。
- （2）前線や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なくなる見込み。

2. 今後の管理

1) 施肥管理



注）本年の土壌 EC 値は、雨落ち部の深さ 25 cm 部分に埋設した土壌センサーにて測定し、実測値に基づき補正した値を示す

- （1）土壌 EC 値は 3/13 の春肥後、降雨の度に上昇しており、4/15 の降雨時には大きく上昇した。

2) 被覆

- （1）資材は、遮光率 70%程度で、穴・汚れ・異臭のないものを使用する。
- （2）被覆開始は、新芽の葉数や生育速度を考慮し、摘採時期より判断する。基本は 2.5～3.0 葉期とし、被覆期間は 10 日間程度とする。極端な若芽への被覆は減収につながるため避ける。また、高温等で生育が進む場合には早めの被覆を心掛ける。

- (3) 直前の気象条件により新芽生育は異なるため、気象庁の 2 週間気温予報の確認、茶園巡回で芽の観察をこまめに行うなど、適期の被覆開始となるように心がける。
- (4) 被覆後は、風による煽りや擦れによる葉傷みが発生しないように、資材の固定を確実にを行う。
- (5) 被覆資材の除去は、摘採の直前が望ましく、新芽がなるべく日光にあたる時間を少なくし、色戻りを避ける。除去時は持ち上げるように外し、葉を傷めないようにする。

3) 凍霜害対策

- (1) 凍霜害の影響を受けた場合は、以下の対応策を参考に管理を行う。

生育ステージ	被害程度	対応策	
萌芽期～ 2 葉開葉未満		被害の程度にかかわらず、そのままにしておく	
2 葉開葉～ 4 葉開葉	1)部分的で被害部と無被害部がはっきりしている場合	そのままにしておき、拾い摘み、または部分摘採を行う	
	2)部分的で被害部と無被害部がはっきりしない場合	①被害芽率が低い場合	そのままにしておく
		②被害芽率が高い場合	被害部を除く程度に軽く整枝する
	3)被害が全面的の場合	被害部を除く程度に軽く整枝する	
摘採期直前	1)被害が部分的の場合	拾い摘み、または部分摘採する	
	2)被害が全面的の場合	刈り捨てて二番茶の生育を待つ	